



## 全国地域づくり推進協議会会長賞 受賞 ～天の川実行委員会～

天の川実行委員会（代表：<sup>のむらゆきはる</sup>野村幸治氏）は、国土交通省が選ぶ平成27年度「地域づくり表彰」の「全国地域づくり推進協議会 会長賞」を受賞した。地域づくり表彰制度は、創意と工夫を活かした広域的な地域づくりを通して、個性ある地域の整備・育成に顕著な功績があった優良事例を表彰することによって、地域づくり活動の奨励を図ることを目的に、昭和59年から実施されている。



### ■実行委員会設立への思い

同会がある奈良県高取町は、近世以降、日本一の山城高取城に連なる城下町として栄え、明治以降は製薬・売薬業で繁栄していたが、昭和40年頃から西洋薬に押され、主産業は衰退した。それに伴い若者は町を出て行き、近年は人口減・高齢化の波が押し寄せていた。

このままでは町は消滅すると危機感を抱いた高齢者仲間の5人は、住民が町を支えることなくして地域は成り立たない。まずは行政や既存の団体に頼らず、リタイヤした高齢者住民で活動することを宣言し、平成18年1月「天の川実行委員会」を立ち上げた。

### ■「町家の雛めぐり」開催

同会では今まで培ってきた技術や知識・経験、そしてふるさとへの思いを持った高齢者世代が中心となり、歴史情緒ある城下町の街並みという地域資源をイベント会場にした企画を立案。お客様は、何事にも感動する感性を持ち、口コミ力があり、食事やお土産にお金を使ってくれる行動力のあるシニア女性をターゲットとした。

この条件に合致したのが「町家の雛めぐり」であった。街道沿いにある個人宅や商店に飾るひな人形を楽しんでもらう1ヵ月間の企画で、全国的なひな祭りイベントと差別化を図るため、住民との交流が自然とできるよう、それぞれの家の「雛

物語」を色紙に書いて一緒に展示した。そのことが功を奏し、観光客からは住民とのふれ合いが楽しかったなどの好評が寄せられた。

平成19年3月に雛を飾る家は36軒で始めたが、現在では100軒に増え、観光客も当初の約8,200人から、平成27年には38,000人と増加している。



### ■新たな分野への挑戦

平成21年10月には、高齢者が作成した等身大のおじいちゃん・おばあちゃん・子供の案山子を、町家や商店に飾り観光客に楽しんでもらう「町家の案山子めぐり」を1ヵ月間開催。

また、平成21年に住民から500万円の寄付金を集め、奈良県及び民間都市開発推進機構からも各500万円の拠出金を受けて、空き家を改修してギャラリー等まちづくり拠点を整備し、毎月手工芸作品展を開催。

当初高齢者仲間5人で動き出したまちづくりは、住民や商店そして色々な高齢者グループや団体の賛同を得て大きな輪となり、更には商工会青年部等次代の町を担う年代へと広がっている。

同会は今後も「老いも若きも人が輝く高取町」を目指したまちづくり活動を推し進めると、力強く語っている。

（奥 桂子）



実行委員会のメンバー